

骨子

ソフト対策とハード整備が一体となった減災体制の確立

早期の治水安全度向上のための多様な計画・整備、既存施設の有効活用、管理の高度化

今年の災害の様相

浮かび上がった課題

緊急に対応すべきこと(代表例)

局所的な集中豪雨が多発

流域が小さい中小河川での予警報体制が必要

局所的降雨予測データを活用した小流域での洪水予測・土砂災害予測手法の開発と運用など

避難勧告の発令等の遅れや勧告が出されても避難しない人が多数

被災経験が減少し、危機意識が低下している中での災害時に的確な行動がなされるよう危険の程度を実感できる情報が必要

各河川の特徴(どの位の雨量で、いつ頃危険か)を平常時から住民に周知  
ハザードマップを全国の主要地域に緊急整備(氾濫で市街地に大きな被害をもたらす約1900河川)  
氾濫浸水状況の情報提供  
高齢者等弱者向けの確実な情報提供など

高齢者等の災害弱者が多く被災

現在の社会的状況に即した共助体制の再構築が必要

地域のNPOなど多様な主体が参加する水防体制の整備など

地域コミュニティの衰退、水防団員の減少など地域の共助体制が弱体化

破堤が多数発生  
ダメージが大きく、事後対応も大変

壊滅的被害を防ぐ施設の整備・管理の強化が必要

施設の整備状況の総点検・評価・公表  
区間ごとに管理水準の設定による効率的な管理  
ねばり強い堤防の推進  
常設の自然災害調査委員会体制の確立など

これまでの記録を超える降雨量、高潮の波高・波力などが各地で発生

早期に効果を発現するための多様な計画と整備が必要

土地利用と一体となった整備の検討  
施設整備に代えて防御対象を移転するなど多様な計画・整備の検討など

引き続き検討